

校長室だより



第6号

令和2年5月25日

校長 齋藤 瑞穂

「新しい」学校生活

日本中の人たちのがんばりで、新型コロナウイルスの感染者が減ってきました。全国一斉に出されていた緊急事態宣言も、14日には39県で解除され、このまま順調に行けば、東京でも6月には学校が再開できそうです。待ちに待った学校再開！学校に杉七小のみなさんの元気な姿がもどってくるかと思うと、今からわくわくします。

しかし、新型コロナウイルスによる危機が完全に去ったわけではありません。気を緩めれば、すぐにより恐ろしい感染拡大の第二波が襲ってくるとも言われています。そうしないためには、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が示した、「新しい生活様式」を心がけなければなりません。残念ながら、休校前と全く同じような学校生活にもどることはできないのです。

注意することはいろいろありますが、特に大切なことを挙げます。

- ・毎朝検温と体調チェックをし、発熱や風邪の症状があれば登校しない。
- ・食事の時以外はマスクを常に着用する。
- ・手や指の清潔を保つために、手洗いと消毒をこまめに行う。
- ・人との距離を保ち、大声で話さない。

これらを守るということは、できなくなる学習や行事、遊びがあるということでもあります。きゅうくつかもしれませんが、それでも、学校で友達と学べること、体を動かせることの幸せの方が、みなさんにとってずっと大きいはずです。先生た

ちも、みなさんが「やっぱり学校は楽しいな」と思えるように精一杯頑張ります。

杉七小の新しい、そして楽しい学校生活を、みんなで協力して作っていきましょう。

芝生は青い？



現在の杉七小の校庭の様子です。

カラーで見せられないのが残念なほど、芝生は青々としてきれいです。

「ん？芝生が青々？？芝生は緑でしょ！」そんな声が聞こえてきそうですね。でも、これは間違った言葉の使い方ではないのです。

例えば、先週の校長室だよりで紹介した俳句「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」にも、青葉という言葉があります。青葉はよく使う言葉ですね。もっと身近なものも思い出してみましょう。みんなが外出すれば必ず目にするのは、そう、「青信号」。「進んでよい」を表す信号の色は、緑だけれど「緑信号」とは言わず、「青信号」ですね。

このように、日本では、緑色を青と表現することがあります。「青りんご」「青菜」もそうですね。

また、緑にも「緑なす黒髪」というような使い方があります。黒なのに緑？どうということでしょうか？

色に関する言葉には、このほかにもたくさん意外な使い方があります。興味をもった人は、ぜひ調べてみて下さい。

保護者の皆様

いよいよ6月に学校が再開できそうです。しかし、子供たち向けに書きましたとおり、新型コロナウイルスと共生しながらの始動になりますので、これまでの教育活動を大きく見直していかなければなりません。子供たちが楽しみにしている行事の多くも中止・変更せざるを得ない状況です。

さまざまな制限はあろうかと思いますが、今後示される杉並区教育委員会のガイドラインに則り、教職員一同、可能な限り子供たちが生き生きと楽しく学べるように工夫して参ります。今後とも、ご理解・ご協力くださいますよう、お願いいたします。